



ソーシャルレンディングを活用した不動産投資について説明するガイアファンディングの真鍋文司代表取締役（松山市大手町1丁目）

ネット利用新投資手法

ガイア社・真鍋社長来県

貸し借り仲介「地方でも手軽に」

インターネット上でお金の貸し借りを仲介する「ソーシャルレンディング」を活用し、不動産投資を手掛ける「ガイアファンディング」（東京）の真鍋文司代表取締役（37）がこのほど来県し、新しい投資手法の可能性などを語った。

真鍋氏は父親が松山市在住で自身は高松市で生まれた。高校卒業後に渡米。現地で不動産売買事業に携わり、昨年7月にガイア社を設立した。ガイア社が集めた資金の投資先は米国の中古住宅市場。古い物件を改修して資産価値を高めて販売する事業者に貸し付ける。真鍋氏によると、米国の住宅市場は中古比率が日本よりも高く、シリコンバレーに近い高級住宅街など人気と安全性を見込める物件や業者を対象に選んでいるとい

ソーシャルレンディング、インターネットなどを通じてお金を貸したい投資家と借りたい人を仲介するサービス。投資先からの利払いを元に投資家に配

当を支払い、運用期間を終えると元本を返済する。ネット上で多数の人から資金を募るクラウドファンディングの「融資型」や「貸付型」とも呼ばれる。

う。

昨年10月の募集開始からこれまでに組成したローンファンドは30件を超え、期間4〜22カ月、年利5〜10%で運用。定期預金などより高い配当利回りが魅力だが、元本保証ではない。真

鍋氏は「抵当権を設定して貸し付けるなど、投資先の貸し倒れリスクを抑えている」と説明する。

最小投資額は2万〜7万円からで「ネット上で手続きができ、地方でも手軽に始められる。配当が消費に回れば、愛媛の経済活性化にもつながる」と指摘。メリットとリスクを理解した上でソーシャルレンディングを活用した個人投資家が増えることに期待した。

（岩田太）